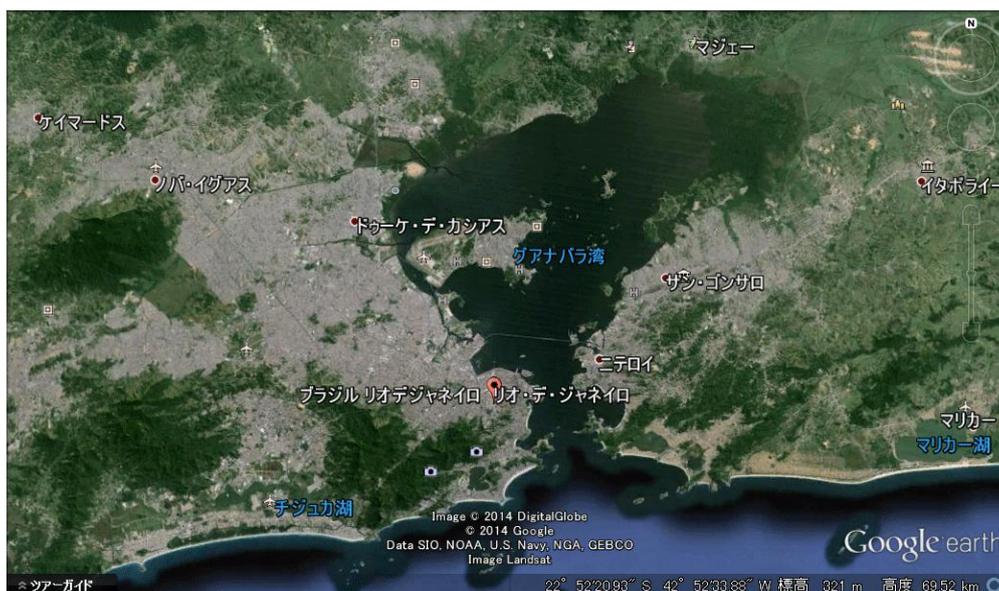


# Aquece Rio Test Events Report

2-9 August 2014

## I ロケーション

リオ 2016 オリンピック・パラリンピックのセーリング競技が開催される Marina da Gloria はリオデジャネイロ南部 Guanabara Bay に面した Flamengo Park に隣接した地域にある。Antonio Carlos 国際空港からダウンタウンを抜け南に約 20 km、朝夕のラッシュ時には車で 1 時間強かかる距離に位置している。



リオデジャネイロ近郊

競技会場はこの Marina da Gloria と隣接する Flamengo Park の一部を使用して行われていた。Marina da Gloria のすぐ先には国内線用のローカル空港があり、終日レース海面のすぐ上空を超低空で飛行機が離発着している。Guanabara Bay 周辺はリオを代表する景勝地であり、白い砂のビーチや緑に囲まれ、垂直に隆起したような Sugarloaf Mountain や市街の山上からはあの両手を広げたキリスト像がレース海面をお見下ろしている。



Sugarloaf Mountain



キリスト像



Marina 周辺の海岸



Marina da Gloria の様子

広大な国土を誇るブラジルらしく、全てがゆったりとしたつくりで、周辺道路の中央分離帯にも緑地公園やフットサルコートがあちこちに設けられており、Flamengo Park に沿った片道3車線の道路は日曜祝日には遊歩道としてジョギングなどを楽しむ市民に開放されていた。



遊歩道として開放された道路

オリンピック・パラリンピックの開催されるこの時期は真冬の乾季に当たり、気温は摂氏25度前後で空気が乾燥して過ごしやすく、日差しは強くてもさほど汗をかくことはない。海水は意外と冷たく、雨天・曇天の日は肌寒ささえ感じる。

## II 会場施設

### 1. 競技会場

オリンピック会場は既存の *Maria de Gloria* と隣接する公園を使用した会場となっている。現時点では、オリンピックのために新設した施設は無く、全て既存の施設と仮設の施設を利用した会場である。会場全体は金網の柵で覆われ、選手・コーチ・役員等が通過するゲートと報道関係が使用するゲートがある。

*Maria de Gloria* はスロープ周辺が若洲訓練所を思わせるような規模であったが、ポンドの奥行きと後背地が広く、堤防沿いに多くの大型艇が係留されていて、全体的なハーバーとしての規模はかなり大きい。

会場のレイアウトは別紙のとおりであるが、これはあくまでも 2014 テストイベントのための仮設施設であり、2016 年本番での施設は全く異なるものになると説明を受けた。しかし、2016 リオオリンピックの計画図は公表する段階ではないとのことで、将来的な計画を掴むことはできなかった。

### 2. 運営ブース

運営ブースは2階建て建物（以下本部棟と表記する）の2階部分（壁は無く天井は布張り）にプレハブの部屋を作り、そこで運営を行っている。施設は以下に示す 16 セクション、18 部屋から構成されており、この本部棟以外には計測用テント、海上監視用ブースがある。



計測ブース



陸上監視施設外観



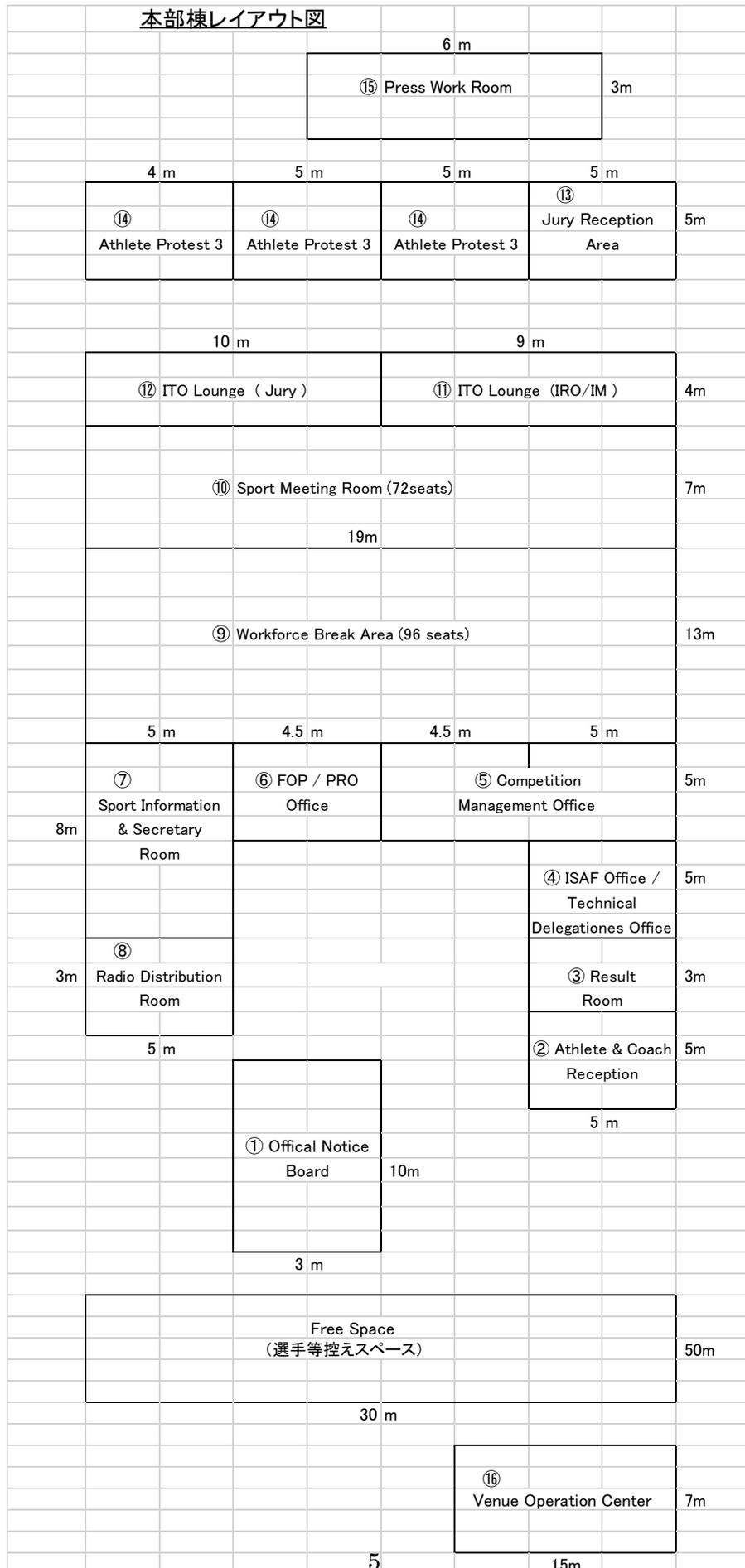
陸上監視施設内部

#### ① Official Notice Board (3x10m)

公式掲示板があり、ガラス張りの部屋となっている。掲示物は部屋の内側から貼られており、風で飛ばされたり汚れないようになっている。



本部棟レイアウト図





公式掲示板

② Athlete & Coach Reception (5x5m)

コーチや選手用の窓口で、レース運営上の質問や要望はこのセクションが対応しており常に混雑しているブースである。

③ Result Room (5x3m)

レースや審問結果を取りまとめ、最終結果を作成・公示するセクションである。

④ ISAF Office / Technical Delegations Office (5x5m)

ISAF からは大会の責任者として Mr. Alastair Fox とレース責任者として Mr. Nino が派遣されており、二人の机が設置されている。

⑤ Competition Management Office (9.5x5m)

実質的にテストイベントを運営しているブラジルセーリング連盟責任者の机があり、レース委員長として Mr. Walter Boddener、事務長として Mr. Kadu が詰めている。

⑥ FOP / PRO Office (4.5x5m)

ブラジルセーリング連盟のスタッフが事務処理を行っている。

⑦ Sport Information & Secretary Room (5x8m)

ISAF 副会長 Mr. W. Scott Perry とテストイベント副委員長 Mr. John S. Bennett の机があり、主に Secretary Room として使用されている。

⑧ Radio Distribution Room (5x3m)

運営に使用される全てのトランコはこのセクションから貸し出される。

⑨ Workforce Break Area (96 seats) (19x13m)

スタッフ用のレストランで事前に購入したチケットが無いと利用することができない。選手・コーチは事前に申し込んだランチボックスが配られていた。一般人は

セキュリティーエリアの外にキッチンカーが 2 台来ており軽食を提供していたが、高くて不味かった。



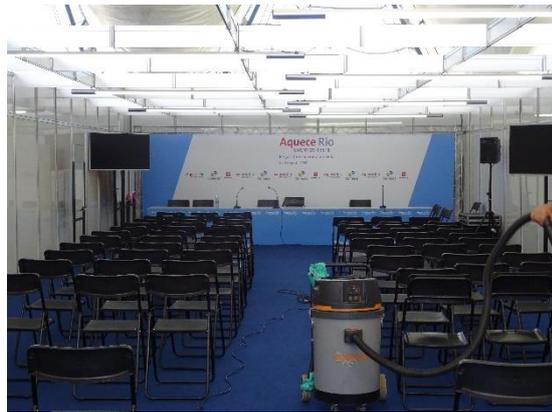
外部者用キッチンカー



スタッフ用食堂

⑩ Sport Meeting Room (72 seats) (19x7m)

コーチミーティング（毎日 10:00 から開催）や記者発表を行う会議室で、発表側の壁にはスポンサーボードがある。ボードには 2 社のスポンサー名（Bradesco、Correios）が掲載されている。



ミーティングルーム

⑪ ITO Lounge e (IRO / IM) (9x4m)

ISAF から派遣される IRO 等の ITO のためのセクションで、Mr. Dimitris Dimou (IM) が詰めていた。

⑫ ITO Lounge (Jury) (10x4m)

ISAF から派遣される J 等の ITO のためのセクションである。

⑬ Jury Reception Area (5x5m)

ジュリーのための受付と控室である。

⑭ Athlete Protest 1～3 (5x5m)

テストイベントでは海上でジャッジを行ったため、陸上での審問は行われなかった。

⑮ Press Work Room (24seats) (6x3m)

報道用のスペースで電源及び WiFi が完備されていた。



プレスルーム

⑯ Venue Operation Center (15x7m)



Venue Operation Center

各施設の運営に必要なスタッフの割り振りを行っているセクションで、大会運営の心臓的な役割を担っている。

また、これら以外の重要な施設としては、選手控えスペース(椅子席 144seats、ソファ席 28seats) (30x50m) とトイレ・シャワー（仮設）が用意されていた。

本部棟の一階部分にはレストラン、売店やマリンショップが並んでいて、フェンスでセキュリティレベルを分けており、一般客もこれらショップへの出入りは可能である。また、フェンスの両側を使ってミックスゾーンが設定されていたが、実際は報道陣が選手控え室まで入って取材をしていた。



選手控室



ミックスゾーン

### 3. 運営施設

#### ① スロープ

スロープは本設1カ所、仮設2カ所で幅はそれぞれ20m程度である。本設スロープも幅20mと決して広くないが、船台担当の責任者とスタッフが的確に作業することによって出・着艇時の混乱は全くなかった。

仮設スロープは本設スロープに併設する形で設置されていた。もう一カ所の仮設スロープはRSXとナクラ用のもので砂浜の上に設置されている。



ナクラとRSXのスロープ



メインスロープと仮設スロープ

#### ② レース艇置場

レース艇の置場は隣接する公園や駐車場も利用し、船と船の間を大きく取り余裕を持った配置となっている。これはフィッティングや艀装の際にスペースが必要なためで大型艇であるナクラ級、49er級及び470級の場合は特にスペースを考慮する必要一がある。



49er級船置場

#### ③ コンテナ置場



コンテナ置場は海側の駐車場を利用しており約20本程度のコンテナが並べられていた。コンテナ間の間隔は1m程ある。これはコンテナの扉をフルオープンする場合に必要な最小限の間隔だと思われる。

日本を始め英国等の国々は Maria de Gloria の対岸にある海軍学校の敷地にコンテナを置いており、オリンピック本番まで日本のコンテナを置か

## コンテナを置く間隔

せてもらう予定である。

### ④ 船台置場

コーチボート等の船台はオリンピック本番では150台程になるため、ある程度の広さを持った船台置場が必要になる。



船台置場

### ⑤ 運営艇・コーチボート係留施設

従来は大型艇を係留する栈橋(70m程)のハーバー側をコーチボートの係留場所、外洋側を運営艇の係留場所としていた。コーチボートは60艇程度あると思われ、3重、4重の腹付けで係留している。

一方、運営艇側は整然と運営艇が並んでいた。これは担当スタッフが発着艇を管理しており台数もコーチボートに比べて少ない(40艇程度)ためだと思われる。



運営艇・コーチボート置場

### Ⅲ大会運営

#### ① テストイベント運営組織

現在ブラジル組織委員会に資料請求中

#### ② スポンサー

会場内には一切「2016 リオ・オリンピック・パラリンピック」の文字は見受けられない。あくまでの **Aquece Rio Test Events** として謳われている。

このテストイベントにはオフィシャルスポンサーとして **Correios** というブラジル政府も出資する IT 企業が、又オフィシャルサポーターとしてブラジルの 4 大銀行の一つ **Bradesco** が登録されている。この 2 社はあくまでも今年と来年 2 回行われるテストイベントのスポンサーとのことであった。



ミーティングルームのスポンサーボード

#### ③ ボランティア

今回のテストイベントでは合計 206 名のボランティアを運営要員として確保していた。(警備・清掃は除く)

今回はそのすべてがいわゆる有料ボランティアだが、本番のオリンピックではその限りではないとのことであった。陸上のボランティアがレース艇出艇後、船台を整然と浜に並べていたのが印象的であった。

#### ④ コーチミーティング

大会期間中毎朝 10 時からミーティングルームでコーチミーティングが開かれる。ブラジル組織委員会のセーリングマネージャー **Walter Boddener** からの連絡事項の報告に始まり気象情報が海軍士官から報告される。それに続き **ISAF** 競技運営ヘッドの **Alastair Fox** からのレースに関する諸注意や説明、並びに計測・運営・ジャッジのそれぞれ **ISAF** 責任者からの諸注意と質疑応答が行われる。コーチの **regulation** などかなり突っ込んだ議論が毎朝行われていた。

#### ⑤ 報道

テストイベントとは言え初日には 150 名の報道関係者が来場しているとの報告があった。地元の新聞には連日このテストイベントの記事が掲載されていたが、街では一般の人の関心はさほど感じられなかった。

会場の入り口はメディア用と選手・一般用とは別れていて、インタビュー用のミッ

クスゾーンも設けられていたが、テストイベントの盛夏期性はそれほど厳しくはなく結構自由にインタビューしていた。

驚いたのはメダルレースのヘリによる空撮。2020の東京でもヘリによる空撮の問題が取り上げられているが、リオでは超低空で離着陸する飛行機のすぐ横で、レース海面 80~100m上空をホバリングしながら撮影していた。

ちなみにオリンピック本番では 11 時~17 時の間、このローカル空港での離着陸を制限し、アントニオ国際空港などよその空港へ振り分けるとの説明があった。



ヘリコプターによるメダルレースの取材

#### ⑥ 観客

競技会場の入り口は、あらかじめ登録される入場証の提示によって制限されている。今回のテストイベントでは期間中一般の観客と思われる人の姿はほとんど見られなかった。メダルレースの海面は Flamengo Park の海水浴場から沖合数百 m のところで、砂浜からも十分観戦できる距離であったが、海水浴客の関心は薄いようであった。オリンピック本番ではこの砂浜にアルプススタンドと大画面を設置すると話していた。

#### ⑦ 表彰式

表彰式は本部塔の上、選手控えスペースの大テント内で行われた。

本番では場所を変更する予定だと言っていた。



表彰式用の準備風景

## IV 競技運営

### ① レース海面：



- ② 風況・潮流： 傾向として午前中は3 m以下。昼頃より南風が湾内に入り  
5 - 10 knot (Blow 12-13 程度)。潮流はかなり有り時刻変化。  
特徴 ⇒ レース海面は大きな湾の出口に位置し出口は  
狭まっており且つ湾出口付近は岩山群が取り囲む。  
景色は素晴らしいが風向変化は湖に近似。
- ③ レース海面の水質： マリーナ内で無風時にはやや悪臭。但しレース海面に出ると  
一部にプラスチック・ゴミの浮遊（特に潮目付近）を見るも  
予想以上にきれいな印象。特に湾外は問題なし。  
【水質改善活動】  
⇒ブラジル・オリンピック組織委員会資料
- ④ 運営艇： 運営ボート20艇購入 (15/運営 + 5/Jury)



海上本部船



運営艇(運営・ジュリー)



観覧艇

【給油】 ⇒ 不便

運営艇：ハーバー内に横づけしたタンクローリーより

コーチボート：近隣のヨットクラブにて

⑤ レース :



49er メダルレース上マーク付近



49er メダルレース下マーク付近



メダルレースの出艇を待つレザーRX

ビデオ (レース消化率：目標の 10-12 レースに対し 7 割程度  
これは無風による No-Race day があったことが影響するも予備日  
が必要)

⑥ 運営ボランティア :



ボランティアが並べて船台